

慰め励ましてくださる神

イザヤ書 50 : 4 - 9



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年9月15日
聖霊降臨後第17主日

聖光教会にて

今日は旧約聖書日課から、昔、主に仕えた僕、無名の預言者の告白に耳を傾けてみましょう。

「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え／疲れた人を励ますように／言葉と呼び覚ましてくださる。／朝ごとにわたしの耳と呼び覚まし／弟子として聞き従うようにして下さる。」 イザヤ 50:4

この主の僕の使命はまず、「疲れた人を励ます」ことです。多くの人が疲れています。困難を負い続けたことによる疲れ、あまりの忙しさのゆえの疲れ。人を支えようとして、あるいはこの社会を少しでも良いものにしたい願って働き続けたことによる疲れ。また人に気を使いすぎたことによる疲れもあるでしょう。疲れて動けなくなった人、何とか動いてはいるけれども疲労が蓄積して危うくなっている人、疲れのゆえに神さまの愛が感じられなくなっている人——そうしたすべての疲れた人を励まし、慰め、元気づけることを、神さまはこの僕に託されたのです。言い換えれば、神の慰めと励ましを人に運んで行くのがこの人の役目です。

そのために主なる神さまは、彼に「弟子としての舌」を与えられました。神さまの弟子としての舌、必要で大切な言葉を伝えて行くための舌です。けれども舌を用いて語るには、言葉が

与えられなければなりません。そこで神は言葉を彼のうちに呼び覚まされます。彼の語るところをもう一度聞きましょう。

「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え／疲れた人を励ますように／言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし／弟子として聞き従うようにしてくださる。」

ここに2回「呼び覚ます」と言われているのに注意しましょう。神は彼に「言葉を呼び覚ましてくださる。」また「朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし」てくださる。

神は、彼の耳を呼び覚まし、生きた言葉を呼び覚まして聞かせてくださるのです。神は彼を呼び覚まさせて、慰めと励ましの言葉を聞かせ、彼を力づけられます。それも「朝ごとに」そうしてくださるというのです。

「主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退かなかった。」 50:5

後半が気になります。

「わたしは逆らわず、退かなかった。」

主なる神によって耳を開かれた僕は、神に逆らわず、その言葉を自分の心に納めると同時に、人に向けて、世の中に向けて語りかけました。神の言葉は人を生かす言葉、世の中を正していく言葉。それを彼は託されて語ったのです。ところがある場合に、抵抗を受けた。彼を抑えつけて口を封じようとする人々

がいた。しかし彼は退かなかった。

すると何が起こったか。彼はひどい迫害を受けることになったのです。こう告白しています。

「打とうとする者には背中をまかせ／ひげを抜こうとする者には頬をまかせた。／顔を隠さずに、^{あざけ}嘲^{つば}りと唾を受けた。」

50:6

彼は背中を鞭打たれました。ひげを引き抜かれました。これは当時の男性にとっては非常な侮辱行為でした。また口で嘲られ、唾を吐きかけられました。「顔を隠さずに」というのは、侮辱と暴力にさらされながらも毅然と対したということでしょう。

ここまで読んだとき、わたしたちはだれかを思い出さないでしょうか。

鞭打たれ、嘲られ、唾を吐かれて、無言で耐えておられた方、イエス。ここに記された昔の主の僕の告白から、主イエスの姿が浮かび上がってきます（マルコ 15:15-20）。

朝早く起きて、だれもいないところで祈り、神の言葉を聞いておられたイエス。疲れた人、病んだ人を励まし癒やされたイエス。愛の働きのゆえに迫害され、捕らえられ、侮辱され、暴力にさらされたイエスが、ここにおられるかのように感じののです。

「主なる神が助けてくださるから／わたしはそれを嘲りとは

思わない。／わたしは顔を硬い石のようにする。／わたしは知っている／わたしが辱められることはない、と。／わたしの正しさを認める方は近くいます。」50:7-8

主なる神が助けてくださる。主がわたしの正しさを認めてくださる。主に信頼してわたしはおびえることはない。この昔の主の僕の言葉が聖書に書き残されて、それがイエスの心に宿ってイエスを励ました。数百年の時を隔てて、昔の無名の告白がイエスのうちに生きて働いたに違いありません。

ところで今日のイザヤ書第 50 章 4-9 節、わずか 6 節の中に「主なる神は（が）」という言葉が 4 回も繰り返されていました。

「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え」50:4

「主なる神はわたしの耳を開かれた」50:5

「主なる神が助けてくださるから」50:7

「見よ、主なる神が助けてくださる」50:9

主なる神さまとこの神の僕の深い親密な関係を示しています。その神は生きて働かれる神さまです。それは遠い昔のことだけではなく、今のわたしたちにとってもそうなのです。

今日、この箇所からわたしたちは三つのことを知みましょう。

第一に、神はわたしたちのことを知ってくださる方だ、ということです。わたしたちの労苦、わたしたちの疲れや弱さ、わたしたちが不当に受ける言葉や扱い。主なる神はすべてを知っ

ていてくださいます。

第二に、神は疲れたわたしたちを慰め励ましてくださる方だ、ということです。疲れた者をさらに重荷を負わせて押しつぶすのが神のみ心ではありません。わたしたちを愛し、助け、わたしたちに命と力を与えて生かそうとされるのが、わたしたちの神さまです。イエスは言われました。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませよう」 マタイ 11:28

第三に、神はわたしたちを新しく招き、ともに歩ませてくださる方だ、ということです。ところで今日の福音書でイエスはこう言われました。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」 マルコ 8:34

この厳しいイエスの言葉の奥には、わたしたちを愛し祝福して、わたしたちを神の国のために用いようとする祈りと熱い願いがこめられています。

「**自分の十字架を背負って**」と聞くと大変なことのよう感じます。しかし「**自分の十字架**」とは、自分の弱さ、自分の病、自分の無力を抱えたそのまま、と今は理解したい。自分の弱さを抱えたままで、あなたはわたしについてくるように。そこ

にあなたの祝福があるから、とイエスはわたしたちを招いておられます。

祈りましょう。

わたしたちが疲れたとき、わたしたちに語りかけて慰め励ましてください。あなたの愛のうちに平安と休息を得ることができますように。そしてわたしたちもまた、力を得て、必要なとき、必要な場面で人を支え励ますことができるようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン